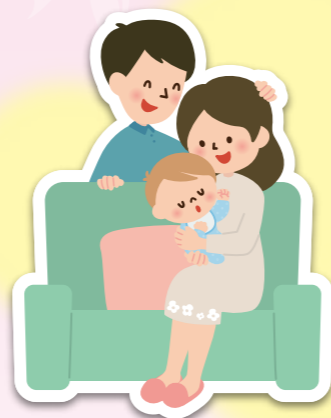


良性婦人科腫瘍は非常に多く、代表疾患として子宮筋腫、子宮内膜症があります。子宮筋腫・子宮内膜症は30歳代から40歳代に向けて発生頻度は増加してピークを迎え、子宮筋腫は30代以降の女性の30~40%に、子宮内膜症は10%以上に存在すると言われており、臨床現場で遭遇する頻度の非常に高い疾患です。そのため手術療法を必要とする症例も多く存在します。腹腔鏡下手術は、創部が小さく美容上に優れ、その他にも様々なメリットがある手術で、当科ではこれらの症例を中心に良性疾患はほぼ腹腔鏡下手術にて対応が可能となっております。(前ページ参照)



近年、晩婚化により妊娠の時期が遅くなり、不妊症の原因となる子宮筋腫や子宮内膜症などの疾患の発症時期と育児希望が重なるようになり、手術適応を考えるのが難しい症例も増えてきております。当科では生殖医療専門医・女性ヘルスケア専門医と腹腔鏡技術認定医を中心にカンファレンスを行い手術適応の有無や治療法の選択を患者さんのライフステージ(年齢・育児希望・臨床症状の有無など)に合わせ適切に判断を致します。

腹腔鏡下手術はメリットが多い手術ですが、一方術者による技術の差が大きく、手術時間や手術の正確性に大きく左右すると言われております。特に不妊領域で子宮内膜症性卵巣嚢胞などの手術で術者により卵巣(卵巣予備能)のダメージが変わるとの報告もあります。当科においては年間約400例の腹腔鏡下手術を大学病院で実施している内視鏡学会技術認定医により全例の手術を施行しており、患者さんが安心して手術を受けて頂くことが出来ます。また、判断が難しい症例や診断・検査だけの症例も積極的に早期に対応を致しますので、気兼ねなく紹介して頂ければと思います。

当科における上記の長所・特色を生かし地域拠点病院として、今まで以上に緊密に近医の先生方との連携を計り、地域医療に貢献し頑張ろうと考えておりますので、御指導・御紹介のほど何卒宜しくお願いいたします。

紹介に際し不明点などは、当院外来に気軽に御連絡・御相談を頂ければと思います。

《ご予約・お問い合わせ》

東京労災病院 地域医療連携室

※月~金曜日 8:15~17:00

電話:03-3742-7129(直通) FAX:03-3742-7314(直通)

「WITH(ウィズ)」第30号 平成29年1月31日発行
発行所:大田区大森南4-13-21 独立行政法人労働者健康安全機構 東京労災病院
発行人:寺本 明 編集人:飯塚 秀和

産婦人科外来のご案内

2014年10月より新たに3人の医師でスタートし、今年度より4人での体制となり、より良い医療を迅速に提供できるように心掛けております。私たちは大田区の基幹病院である東邦大学医療センター大森病院・産婦人科からの赴任で大田区の産婦人科医療に携わって参りましたので、以前に増してより緊密な地域連携を計りながら、産婦人科全般の診療を行っております。



よろしくおねがいします!



産婦人科 特色

まず、当科の特色を各領域別に紹介いたします。



周産期領域

当院の特色として、都内でも珍しい**院内助産(つむぎ助産院)**を有しております。自宅で過ごすようなリラックスした環境を提供し、なるべく自然な分娩を心がけています。妊娠中には助産外来、ヨガコースなどを通じて、安心してお産に臨めるように精神的・肉体的にケアを行います。また、分娩後のサポートにも力を入れており、育児サークル、断乳コース、乳房育児相談外来を通して分娩後のケアも積極的に行っています。ガイドラインに基づいた診療を**周産期専門医のもと実践**しております。重症症例など必要な場合、東邦大学医療センター大森病院産婦人科(MFICU)・新生児科(NICU)との連携を活かし迅速に対応しています。妊娠糖尿病・甲状腺疾患などの合併妊娠にも他科と連携し周産期管理をいたします。



生殖・内分泌領域

近年、社会的な背景による晩婚化などもあり不妊症も増加しており、早期の受診が必須と考えられます。そのため不妊・不育外来を開設し、**生殖医療専門医による診療**を行っております。AFCやAMHなどにより卵巣年齢(卵巣予備能)を評価し、子宮卵管造影など含めた不妊スクリーニング検査などを適時・適切に施行し、並行して性交指導・人工授精などの加療を行います。また、不育症(習慣流産)の相談・検査も行っています。

女性ヘルスケア領域

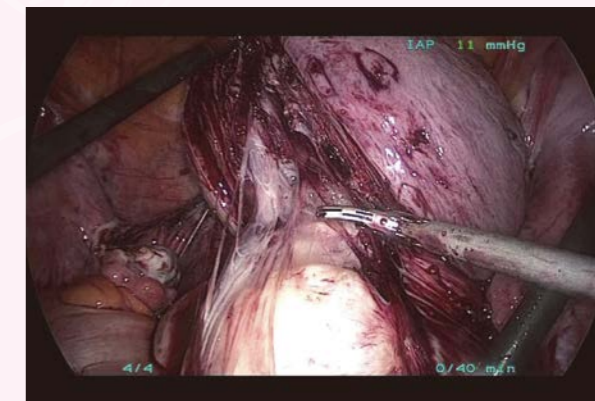
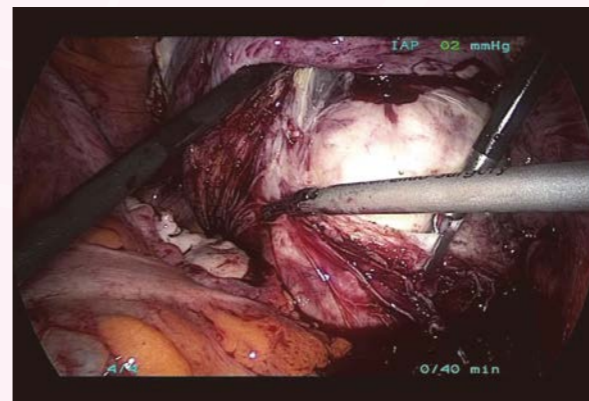
女性の人生において更年期は単なる通過点ですが、高齢でいかに健康に過ごすか(健康寿命)を考えた場合において、この時期(更年期)をどのように過ごすか、健康管理していくかが重要なポイントとなります。当院では**女性(更年期)ヘルスケア専門医**のもと更年期～老年期における諸症状において、相談・診断・加療していきます。

このように当科では**産婦人科各領域の専門医による診療**を行っております。

腫瘍領域においても様々な手術に対応しておりますが、現在、特に力を入れているのは**腹腔鏡下手術**です。器具も完備し適応範囲を拡大しましたので、今回、当院の腹腔鏡下手術について、御紹介したいと思います。

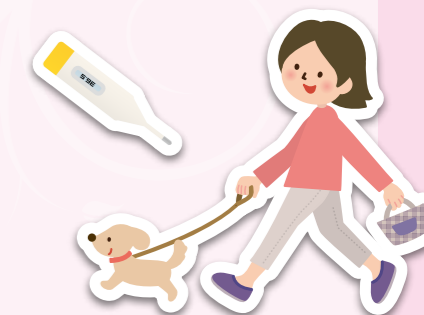


腫瘍領域～腹腔鏡下手術について～



●腹腔鏡手術のメリット

- 1) 創面が小さく美容的に優れている
- 2) 術後疼痛が少ない
- 3) 社会復帰が早い・入院期間が短い
- 4) 肉眼では確認しにくい細かい操作が可能(深部到達能と局所拡大能)
- 5) 術後の癒着が少ない



●当科における腹腔鏡下手術の対応疾患

子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮内膜症、子宮腺筋症、異所性妊娠、卵管瘤水腫(膿瘍)、不妊検査、多嚢胞性卵巣症候群など

●腹腔鏡下対応術式

子宮全摘術、子宮筋腫核出術、付属器切除術、腹腔鏡検査、卵巣多孔術、卵管開口術、癒着剥離術、卵巣腫瘍摘出術 など

●当院における腹腔鏡下手術の特色

- 1) 年間約400例の腹腔鏡下手術を実施している内視鏡学会技術認定医により施行
- 2) 症例によっては約3カ月以内の早期に腹腔鏡下手術の計画が可能
- 3) 腹腔鏡技術認定医・子宮鏡技術認定医と生殖医療専門医を中心に手術カンファレンスを実施

●以下のような症例も是非ご相談ください

- 1) 手術適応に迷う症例
- 2) 挙児希望がある子宮筋腫や子宮内膜症性卵巣嚢腫などの合併症例において、手術が先か不妊治療が先かなど判断が難しい症例
- 3) 当院においてMRI検査を迅速に施行が可能であるため、診断だけの症例
- 4) 不妊症における腹腔鏡検査(卵管通色素検査、子宮内膜症焼灼術、癒着剥離術)や手術(多嚢胞性卵巣焼灼術、卵管瘤水腫)の必要な症例

⇒腹腔鏡下手術の適応や可能かの判断は当科にて評価をいたします